

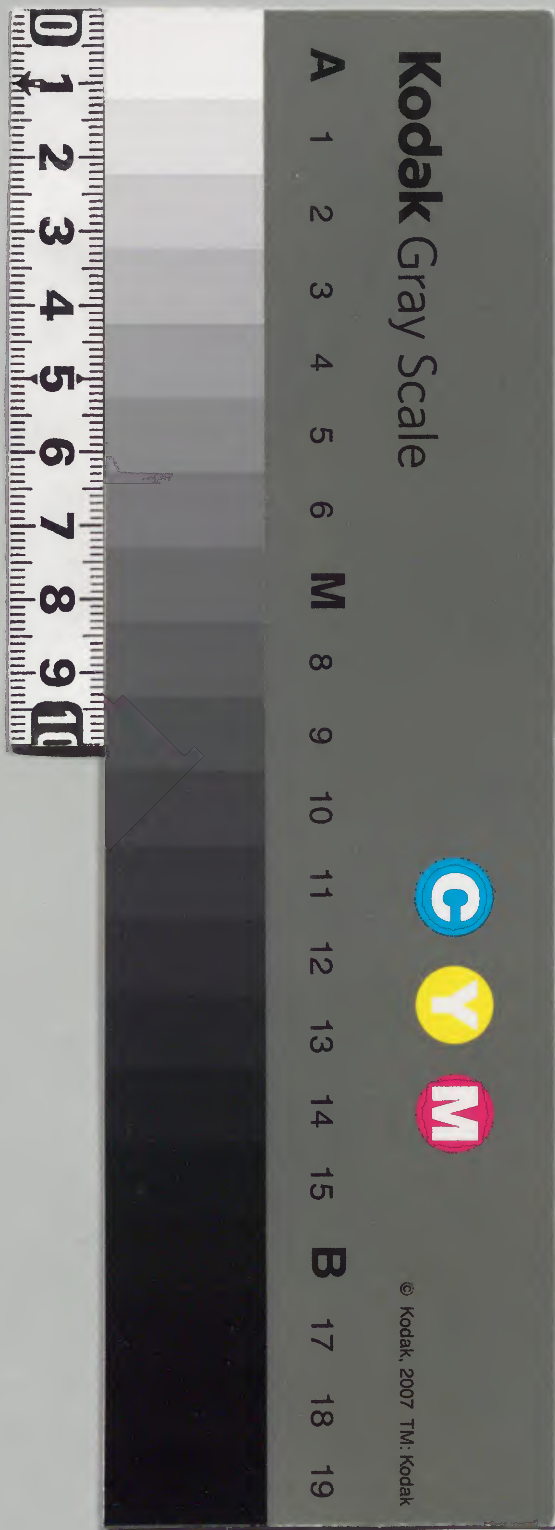
日本書紀傳 三十卷 二

和 一〇五二二號

百四

内閣文庫		
番號	和	10522
冊數	156 (113)	
函號	特 85	1

内一六八五號



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

文
教
年
月
日

文
教
年
月
日

文
教
年
月
日

獲武が流離るハね一地小祠を建て祀ル云云ハ附
會の候云云ハ是事あるカ若クハ此國作の
時あどの神跡ありハ外ハ思合才可き事ハ無
れども其島小加茂村云地ノ二所有ハ決めて有
や有ハ云云ハ就テ皆大己貴神の越八國を平させ御
後勅の爲云云ハ之
在一坐ける御事ハ傳廿九五十八引ハ紀伊國日高郡
下愛徳社建保縁起ハ水舟行ク國漂下ハ大男汝世を
始給ハ時古志の片道七日行ク船泊無レバ此神泊
を造ルむと思ハ乞テ宮を出テ其所ハ御在リ坐テ作
給ヘト畫作給ヘハ夜崩レ七日の其間三度作給ヘト
畫作給ヘハモ杵春宮小遷給ヒテ諸神小告テ宣ハク我
此泊作ルむと思立たれども更ハ作立ル事を得ず

○日本書紀傳三十

○七十三

一三六八三號

△天利叙神社素戔
可き由傳十三八十一
なり又

ハ試ハ又神名式ハ越前國敦賀郡叙神社ハ出雲風土
記ハ須佐能烏命御子都苗支日子命見元たり田結神
社ハ右の若狭國三方郡あり多由比神社有て彼國引
の文ハ故將作後詔而云々國々來く引來縫國者云々
と有る是ハ少て國の有餘を引來て國の不足ハ縫作給
へれば手結の義あり即出雲國島根郡の地名ありハ
此ハ所以有り又久豆称神社ハ出雲國楯縫郡玖澤神
社有て風土記ハ所造天下大神命天御飯田之御倉將
造給並實巡行給下と有る故事有る地ありを思ふ
才可ハ又野坂神社ハ和名抄筑前國御名ハ宗像郡野

坂乃佐と有て傳十五四百九丁ハ注さが如く伊都伎島神
小由有る地名あり又大棕神社ハ三代實録ハ元慶四
年九月十七日 授越前國從四位上大棕神正四位
下と有ハ大和國葛上郡大倉比賣神社一名雲と有る
地神本紀ハ下照姬命を坐傳國雲梯社と有るあり合り
又市振神社ハ隱岐國知夫郡由良比女神社名神大元
神頭注ハ大己貴命后須勢理利命と有るあり其御由
縁ハ就て考合す事有て下三十五丁丹波國加法郡伊知布西神社の下ハ注せり
又白城神社ハ素戔鳴尊ハ御在
し坐るハ事ハ已ハ傳廿八十丁ハ云りさ又大神下前
神社ハ大物主神の后神ハ御在し坐べく又丹生郡大

主神の坐す事申すも更あらず大己園生大野神社ハ大己
 貴神あり可き由傳廿九四十小己注が如し又三
 代實録ハ元慶七年十二月二日授越前國正六位上氣
 多神從五位下之有ハ式内の何社あり詳あらず
 ども必其神の何れあり御在坐す事の謬文あり其
 考名命之相並ハ給へり時の御事ハ傳廿九卷百
 七十五丁云り若て上件敷賀郡田結神社ハ万葉三
 卷三十四丁角鹿津乘船時歌ハ大夫乃手結我浦
 云々反歌ハ越海乃手結之浦矣之有ハ是あり又同
 郡玉佐々良考神社ハ月夜見尊御在坐信露考
 事神ハ素戔鳴尊御在坐信露考
 政官種奏割越前國江沼加賀二郡為加賀國事云々
 元正天皇御紀ハ菅生二年五月未割越前國之羽
 能登國至珠洲四郡始置能登國之有右の二國其

大己貴神ノ御在
 坐事ハ傳廿九卷百
 七十五丁云り若て
 上件敷賀郡田結神
 社ハ万葉三卷三十四
 丁角鹿津乘船時歌
 ハ大夫乃手結我浦
 云々反歌ハ越海乃
 手結之浦矣之有ハ
 是あり又同郡玉佐
 々良考神社ハ月夜
 見尊御在坐信露考
 事神ハ素戔鳴尊御
 在坐信露考

越前本國の縁を離 神名式ハ加賀國江沼郡宮村岩部
 社大己貴神ノ御在坐信露考
 神菅生石部神社其大己貴神ノ御在坐信露考
 如し三代實録ハ元慶七年十二月廿八日庚申加賀國
 菅生神正五位下元慶二年正月十五日奉授加
 賀國從四位上菅生神正四位下之有菅生神是あり
 行囊抄ハ教地天神宮左の岡ハ在り是を菅生天神云
 云云前云橋有り教地橋云云云此天神宮非菅丞相云
 云云説有云書せり思ふ云教地云云云彼大國主神云之云為
 也天下を教給云御事云因云れ云あり云あり云可云又集
 多御子神社ハ下七百三ノ注天皇實録ハ天安元年九月乙未朔壬

△下小云云如く
申せしを合せて

實在加賀國正六位上治田若布子神授後五位下之有
之治ハ兼の誤リ云説有れども今此を思ふ小氣多
之申す神名ハ万葉七八小湯種蔣荒木之小田兵十六
二十小荒城田乃子師田乃稻乎あど見之姓たひ荒木田是ありの荒木田
も伊勢國度會郡城田多郷より出たふあり新墾の田
を荒木田云を略きて唯小城田云云が如く此大
己貴神を祀る社を神田神社と申す由上三十九丁小云
ふ如くあれハ氣多ハ荒木田の略あれハ治田ケタと書て
遠へふ小非ず却りて言義を明らむに階梯之成て甚
愛たき事あり顯宗天皇御紀室壽御詞小出雲者新墾

新墾之十握稻之穂云云有も出雲の下小神字を加
へて心得れハ出雲神の新墾為給ハ其新墾田の十
握稻を以て壽給へり趣も甚明らふ聞ゆ者あ
り先小ハ氣多ハ饑田クと思ハくども右の治田の
字小依て此説を成して見の時ハ甚幼き事ありけり
又和名抄小當郡山背也萬之郷有小三代實録小貞觀十
八年七月廿一日丙申授加賀國正六位上山代大堰神
後五位下之有正大井神ハ上三十九丁小注ふが如く松尾
神ありて即大山岬神の御事あり又三枝位伊郷有正
其所録上四十九丁小云云を考合す可く又長江奈加郷ハ

姓氏録 大和國神 小長柄首天乃八重事代主神之後也

と有るを思合す可し又能美郡多太神社ハ大田田根

子命小坐し又石部神社ハ右の如く又石川郡白山比

咩神社ハ素夷鳴尊大己貴神の御在し坐す由傳十

三八下小己不注りき又加賀郡三輪神社賀茂神社神

田神社御在し坐す由来上小條と小なり又須岐神社

ハ阿須岐の略然時ハ味耜高彥根神不渡りせ給

へリ 諸右の神田神社ハ上あり近江國と等しく大己

等の神社ハ依て合せ心得し謂ひ清和天皇貞觀

三年實録ハ真神田朝臣全雄賜姓大神朝臣大三輪大

田田根子命之後也と有る是あり又石川郡小田

神社有る此ハ其之ハ別して風土記ハ石川郡原部郡

△有る近江國依
同書ハ近江國
多大明神等傳
大己貴神三輪
神也

神田神社主田六十二末三毛田所祭饒速日命也大寶

二年壬寅八月始奉主田加神礼と有る別神あり姓氏

録左京神別上天神小真神田曾祢連神饒速日命六世

孫伊香我色乎命男氣津別命之後也又大和國神別天

神小真神田首伊香我色乎命之後也と有る是あり大

神朝臣の流ありハ真神田朝臣あり其姓同トす

心得べき又神名式ハ能登國羽咋郡氣多神社名神此

事せあり 御事ハ傳十五三百九 廿三五十一 廿七七十九 廿九百四

己不注せりガ如く一宮記ハ越中國射水郡小坐を

もせハ大己貴命と書し諸神記ハ大己貴命也則三輪

明神御事近江日吉同体也又崇神天皇御宇勸請云々

と見え頭注小此を大己貴命と書し越中國ありを天治

玉命と云ふハ生國魂神を生玉神と申依りてが天

字衍れり釋書使券小成記云兼多社在羽咋郡祭神有
 二說或曰大己貴命或天活目命之有之天活目命も右
 の活玉神を誤れり云めり社説ハ本殿ハ大己貴命
 與社ハ素戔鳴尊稲田那命頂社ハ大己貴命の石像
 あり云り若て氣多ハ荒木田少て新墾の田を始給へ
 り事右小云るが如く是許の御事た小甚下き御
 功あり小傳六百三十の引サセテ名勝志小能登國ハ往古
 羽咋の馮馮より能登郡海道を經て内浦田鶴濱石崎
 ぞ云所海濱少て島國あり一時ハ人も住ず有し小依
 て怪鳥大蛇の棲處あり在レを氣多大神此を退治し

給ひけりより人家出来て一國之成れり由山田の龍
 大明神鷲嶽ハ幡宮の社傳小遺れり之有少て國作の
 御事明く小知れたり諸和名抄小岡本邑於保の
 二郷有ハ素戔鳴尊神大布比賣命小由有少可く又
 相見神社ハ伯耆國會見郡會見郷有リ氣多ハ因幡國
 小氣多郡有て古事記八十神段小詔ハ氣多之前是
 あり出雲より御在し坐て次小國を開りせ給へり
 御事の縁せあり又能登郡張登生國玉比古神社ハ傳廿
 九百十小注せりが如く大國魂神少て御在し坐せば
 兼多大神の荒魂小渡りせ給へり諸兼多神社の祭事

兼多社在羽咋郡祭神有
 二說或曰大己貴命或天活目命之有之天活目命も右
 の活玉神を誤れり云めり社説ハ本殿ハ大己貴命
 與社ハ素戔鳴尊稲田那命頂社ハ大己貴命の石像
 あり云り若て氣多ハ荒木田少て新墾の田を始給へ
 り事右小云るが如く是許の御事た小甚下き御
 功あり小傳六百三十の引名勝志小能登國ハ往古
 羽咋の馮馮より能登郡海道を經て内浦田鶴濱石崎
 ぞ云所海濱少て島國あり一時ハ人も住ず有し小依
 て怪鳥大蛇の棲處あり在を氣多大神此を退治し
 給ひけりより人家出来て一國之成れり由山田の龍
 大明神鷲嶽ハ幡宮の社傳小遺れり之有少て國作の
 御事明く小知れたり諸和名抄小岡本邑於保の
 二郷有ハ素戔鳴尊神大布比賣命小由有少可く又
 相見神社ハ伯耆國會見郡會見郷有リ氣多ハ因幡國
 小氣多郡有て古事記八十神段小詔ハ氣多之前是
 あり出雲より御在し坐て次小國を開りせ給へり
 御事の縁せあり又能登郡張登生國玉比古神社ハ傳廿
 九百十小注せりが如く大國魂神少て御在し坐せば
 兼多大神の荒魂小渡りせ給へり諸兼多神社の祭事

高瀬神
 射水
 氣多
 大神
 延喜
 八年
 八月
 十六
 日
 乙卯
 以越
 中氣
 多大
 神

壬申^午越中國高瀬神叙後五位上續後紀小養和七年九
 月癸酉朔辛丑^{奉授}越中國從四位下高瀬神從四位上文德
 天皇實錄小齋衡元年辛卯越中國高瀬神加後三位同
 十二月戊寅越中國高瀬神祿宜祝並預把笏三代實錄
 小貞觀元年正月廿七日甲申奉授越中國從三位高瀬
 神正三位^有有て神階も重くして何れの御時小高瀬
 神二上神^{射水}共小並びて預給へるハ二社共小氣多
 大神の御在^{一坐}一神代の宮居あれは^可可し又射
 水郡氣多神社ハ所祀右の能登國小同ト顔注及諸社
 根元記小延喜八年八月十六日乙卯以越中氣多大神

預官幣園史云延暦三年三月三日丁亥氣多神正三位
 と有る事ふれども續後紀小依小養和元年小能登國
 兼多大神神已小正三位と有れば此小引違へたる者
 あり可き事延喜小至りて官幣小預給へるありても知
 ることあり諸諸神記の如くハ高瀬射水兩社の如き
 も此大神の能登より御在^{一坐}一坐ける御時の行宮ふ
 小其本社小神階の處分無きハ如何なる事と年来心
 行ざりつゝ小熟思へば三代實錄小貞觀九年十月五
 日 授越中國從五位下^神神從五位上元慶三年
 二月八日授越中國從五位上^神神正五位下と有る

沿河比賣奉行之時云々有あざハ出雲より次ハ越
前越中を経て此小御在_一坐_一御事を知て右の國
あり互小考合す可き事多在りぬ可きも亦自然の理
あり神名式小頸城郡奴奈川神社之有ハ即其婚給下以
し神の宮處あり但此御妻向ハ傳廿九五十六十下注五が
如く此神の事八十代神之聞えさせ_一聞_一小屢御往來
御在_一坐_一けりありけり同郡大神社今在三島大三輪
村之も又ハ妙高山の神あり之も云り大同類聚方小
志乃久良藥越後國大神社傳方元波大己貴命傳方也
大領大神乃玉手等之家方之有り三代實録小貞觀三

年八月三日甲辰授越後國從五位上大神神授從四位
下之有_一是_一あり此神經ハ大物主神事代主神を祀れ之と思山下ハ百三云又居田神社三才國會小祭神大己貴
命也之云り大同類聚方小三輪藥越後國頸城郡居
多神社傳方元者少考名神削大己貴神傳方祝子大神
保公等家方也又小三輪藥之云も有り免惠紀行小此
御社ハ昔三輪御進茂の時より北海擁護の神たり云
之云云ハ上件國巡り造給_一御事を傳云云あり韓征_一御事之して
けり三代實録小貞觀三年八月三日甲辰越後國從五
位上居多神授從四位下之有り今も居田村之云云御
在_一坐_一けり之が又佐多神社ハ大和國宇智郡高天山

佐太雄神社 鐵 同神あり可し此云風土記不謂ゆは佐
 太御子小御在坐事代主神あり事子委しき考有り大同類聚方小奈也美蘇越後
 國瓊城郡佐多神社傳方元波大己貴命傳削也云々有也
 由縁有之事あり可し或書小今祇園日吉諏訪合坐之
 云り又水島磯部神社ハ姓氏録小石邊公大物主命子
 久斯比賀多命之後也之有を地神本祀してハ大己貴
 神の孫ありて事代主神の兒天日方奇日方命有賀
 茂君大神君等の祖ありが此郡小大神公の多き也此
 小依れ之者あり南郡小大神氏の多き事ハ右小引
 小橋佐美豆蘇越後國瓊城郡早水郡宗田村主瓊城郡
 小領冠佐大御臣等之象傳云々大己貴命授云々之有

あごを以知又傳廿九卷百七十七丁小注せむが
 如く同方小故奈加葉收奈加葉越後瓊城郡收奈加波
 神方也元者ハ考各神削大己貴命傳方又阿比田葉越
 后國之比城阿比田乃神社乃造乃家方其原波ハ考各
 神云々之有ハ考各命也此地小御在坐能登國葉
 知れ又傳十五卷三百九十八丁小注せむ能登國葉
 多神社小十一月中己日ハ鶴祭あり鶴浦村より鶴を
 捕り午日清後して己刻神前所を捕へ海小故つ
 上り鶴の前少て羽叩して跪く所を捕へ海小故つ
 此鶴越後國中山神社能生權現の磯小依たし時彼社
 の祭礼あり傳云北島の女神此鶴浦の磯ハ依給以一
 宮神之夫婦之成給以て小中善ハうも非りけれ
 ハ越後の張生ハ赤給以て或社地を假借て任給ふ小
 因れり之有ハ當群能生浦の辨財天是あり即宗像神
 の御事あり少思令せる事有故其瓊城郡小大
 己貴神ハ居多神社小御在坐其和魂大物主神ハ
 大神社小御在坐其荒魂大國魂神の御事ハ右

此第小岸を打敷ふ云ふ事云れども然る水の岸を
おを以て名と為すも川合神社と申す正しき稱有
うくハ入る事あり阿袁利宮と申すハ祭神の説不
て即雨降神なる由あるを後世ハ唱聲めたる事
ハ有借右の如く瓊城郡より推して次ハ大己貴神を始
奉りて其御族の神等も悉く御在し坐し盡さざり所
無小其東極ハ右七十備后郡のふ云ふ飯豊山イヒダヤマあり陸奥出羽越
後の三國ハ跨りて其神ハ下照姫命ハ御在し坐あり
小其陸奥國より蒲原郡を經ハ海ハ入る川を安賀川
と云ふ播磨風土記ハ銘磨郡上右稱美賀者伊和太
神之子阿賀比古阿賀比賣二神在於此處故因神名以
為里名と有るも亦思合せざり事あり伊和大神と

申すハ大己貴神ハ渡りせ給へれば打合たる心あり
然して蒲原郡青海神社二座ハ今も青海庄加茂町加
茂大明神と云ふ御在し坐を其賀茂社を加茂沼郎義
綱京より勸請と云ハ本末の遠有べし此社邊ハ住
へり加茂を以て稱号と為しハこり有けり又沼
垂那川合神社御在し坐ハ合せて山城國ハ賀茂下上
社と鴨川合社と立せ御在し坐す所以ハ考合す可し
又磐船郡多伎神社ハ右の三島郡ありと等しく満津
姫命ハ渡りせ給へり事あり又和名抄
小沼岳郡足羽安須郡有ハ上七十ハ謂ハ越前國足

△位及志云物小全
九大神不在大已
續命を祭ふこと

△十世孫大御承持
命云云有神
持神社あり有り

羽神社の御事小就ても大已貴神小由緒無小ハ非才
亦下四百八十八注因云神名式小佐渡國雜太郡引田部神社之有正
此ハ大神引田公あどの住ハ後の事の事あり神代小係
て云べきハ非ズ之雖も本より其大已貴神の御在
坐けるを後小氏人の祀れりあり有む知ク又賀
茂郡阿都久志比古神社略風土記云物小長江村小
熱事彦神社有り之あり地神本記三天日方奇日方命
を亦名阿田都久志尼命之書て其十一世孫大鴨積
命此命磯城瑞籬朝御世賜賀茂君姓之有り和名抄小
賀茂郡賀茂郷有合正を其長江村之云也姓氏録小

△但本武天皇御記
の御朝臣ハ河傳朝臣
小云下五百十二丁割

小長柄首天乃八重事代主神之後也之有小由無ト
ヤハ又佐為郷之云も有り大和國城上郡狹井坐大神荒
魂神社五座之有之録あり事云も更あり引田部ハ古
段小引田部赤楮子之云人名有を記傳四十一卷二十
九丁小神名帳大和國城上郡小曳田神社有り此地小
因れり姓あり可し書記天武天皇御卷ハ引田朝臣廣
目引田朝臣火麻呂あり云人是えたハ此姓ハ三代
實録五十卷ハ大神朝臣良良云大神引田朝臣等遠
祖難同派別各異云此小依れハ大神朝臣の支別ハ
云れたリ上三下十小注せハ如く少彦名神の弟世郷
小渡るせ御在一坐けハ後小大已貴神の國中を獨能
巡國り御在一坐て國土を造御在一坐けハ丹波山
城の國より始て諸國小打立一御在一坐けハ思ハ

△又神路社ノ御事ハ
下地御社ノ云々

云を出雲より其國不到るせ御在り坐ける御道次ハ
其経給へ云々を造るせ御在り坐ける御事申すも
更なるを今山陰道の國々の事を丹波より註一行む
事を逆ふる不似たりと雖も神名式の序次ハ依て注
さずてハ注す我も見む人も心行難き事ある故不立
返りて丹波國の御事跡を明らめ奉らむとす神名式
小船井郡出石鹿石部神社天日方尊身命多紀郡神田神社大己貴命氷上郡岨
部神社ハ上小同トく知乃神社出雲風土記小神
門郡智乃社を神名式小智任神社と有て即彼國の神
あり新田神社ハ出雲國大原郡西理太神社有り若く

ハ須勢理毘賣命ふても御在り坐るむら兵主神社ハ
傳廿九百二十小注四丁ガ如く八千弋神ふて渡らせ給
ひ伊都伎神社ハ三女神ふて渡らせ給ひ又和名抄ハ
美和賀茂石生伊曾の郷名有も悉く所由有る事せふ
り又何鹿郡阿須々伎神社ハ味耜高彥根神ハ坐る
同抄吾雀郷有り佐陀神社ハ出雲國秋鹿郡ハ佐陀神
社有り河年奈備神社ハ風土記ハ出雲郡神名大山見
えたり下百二十福太一本神社ハ同記ハ意字郡佐久多社式ハ
佐久多神社同社坐韓國伊太氏神社見えたりハ其一
座ハ大己貴神也御在り坐るむら此ハ割田サツダ云

事ふて此時小國土を作らせ御在し坐て大新墾の
 神田を物為させ給ひ其成就れし不及びて始て領田
 の御政を行はせ御在し坐けり故あざし也又尚郡
 有り地神本紀大己貴神邊津宮神高津姫神上生
 一男一女と有る思合す可し又三方郡右七十五丁
 を注ふ若狹國三方郡の説と同く天日方奇日方命
 を梯梯方命と申す縁是あり又其天日方奇日方命
 大己貴命女考名命ありて揚磨國神埼郡但馬國粟
 鹿郡の境小生野と有る其より起れり社ありむつ揚
 磨風土記揖保郡稻種山大汝命女日子根命二柱神在
 於神前郡聖岡里生野之峯云々有る是あり又傳廿
 九卷百六十五丁小引に天田郡梅谷村小岩神と申す
 在り昔天照大神の御時西宮妻三郎と申す御神楮國
 遊行し給ふ時神馬を此小留めさせ給ひし旧跡あり
 云々云々右の二柱神の係り又ハ事代主神を
 夷神と申せば其御事ありふり何れありても此前後
 二の國作の御跡ハ漏ざり者之是えて奇しき神地

此の珠小注す可き
 事多しうけり
 下三九ふ云々
 あり

大己貴神社名神
 大己貴神社名神
 大己貴神社名神

あり者 丹後國の事ハ加佐郡の風土記近頃世不出て
 大己貴女考名二神の故事殊不明らかり者あり其
 與蘇郡須代神社ハ須勢理畏貴命の御在し坐べき由
 考證の説ハ據て傳十五丁四百小己不注りき宇良神社
 ハ丹後舊事記云物ハ由良湊十二社明神と云り須
 注ハ隱岐知夫郡由良比咩神社を大己貴命嫡后須勢
 利姫命と有る是あり阿知江神社ハ和名抄ハ謁敷郡
 見えたり今温江村ハ坐りとり若くハ味耜高彥根神
 小也御在し坐べりむ其ハ阿知江岨部神社と申す
 も其神の縁あり例の大己貴天日方奇日方命も御在し坐りむと思しけ

合我中国射水郡
武外神谷神社
申すか神谷村と
云ふ事大已貴
命之傳たし
神有れ此神谷
神社

任不遠れり大刀宮之云ハ此故ありと云り大日類聚方
十五卷小神谷藥美濃國厚是郡人是連乃家方元者大
已貴命之神方也之云ハ此神社小出たにあり可けれ
ハ大已貴命を祀れりと云事其謂れ有る者あり然
時ハ考坐命ハ後小合せ祀り以けむ事著き者あり
諸其齊大明神の御事小就て神社啓蒙小里誘所謂
若天下凶徒欲捧起則神殿鳴動而宮中神箭悉飛去
入海或起他邦也於是固刺史捧兵器遣軍卒畫水警
澤不急也或五日或三日之後以神殿為期集飛箭納
宮中云故軍人稱天下治平神云云小就て考有る其
ハ大日類聚方五十六卷小竹野桑大和國由陀郡多氣
之君戸呂奉流方元者佐士布都乃神之教也之有る多
氣之君ハ古事記呼都河宮後小建豐波豆良和氣五者
云々丹波竹野別尊之祖也之有るハ當社不在に所の
神方を傳奏せんとあり若て佐士布都乃神ハ固其白檮

原宮後小見えて建御雷神の亦名あり斯れハ此竹野
神社小ハ其作士布都乃神也御在に坐ガ故小右の如
く天下治平神の説ハ有るありけり若て其三島田神社
ハ今市場村小御在に坐ハ齊庭村の義あり可し啓蒙
小又云く号齊宮者熊野郡市場村有齊宮之人生女子
則无箭必立十屋上也其子四五弟之時奉尚宮呼為齋
女也于山中深林之中獨與禽獸同居敢怖無怖畏若及
長天養至或交接之情則大蛇出現尅々瞑眼及是時致
官還郷里之有ハ齊大明神の説あり右の神谷神社の
神主佐治正之ハ予ガ門人あり其小問聞く小近き頃
其市場村より齊女を出才事ハ止たり其齋大明神ハ
三女神小坐さハ三島田神社ハ其神子あり此より奉
らも其神母子ハ謂あり少や諸其齋女ハ天突至り又
淫心を萌すか至りてハ神名式小謂四ハ竹野郡依達
神社より大蛇出来に定りあり在に坐さ其社ハ
舊事記小伊勢兩宮を祭るに在宇川莊下村靈蛇尾山と
云但馬國ハ上古大湖ありしを大已貴少彦名二神の
瀬戸を切開きて水を落し國土を成給ひ其より東方

三河國不務御在し坐けず就て二神の遺跡の教略
ハ傳廿九百六十ハ注せれハ今云限ハ取ず神名式ハ
但馬國朝来郡粟鹿神社名神ハ傳十四百九ハ注せり
ガ如く上社彦火火出見尊中社籠神下社豊玉姫命ハ
御在し坐を又大日靈尊月讀尊素戔鳴尊合三神とも
申す説有て凡て六座あり然るを古本書入ハ一番室
尾ハ幡大菩薩二番衣摺大明神三番本表大明神以上
此三神者粟鹿神御子云云ハ所見たハ就て考ふ可
き事有り右の室尾ハ幡宮を御子と申せりハ仲
哀天皇少て御在し坐くと是ハ小祭ハ所右の六神ハ

子上ハ其素戔鳴尊を体あし云ふ少て其ハ幡宮ハ
予が弟ハ云ハ三女神の御事ハ御在し坐けず然
思ハ由ハ刀我石部神社を續風土記不在東河郡東
河合村衣摺大明神也大己貴命云云ハ三河風土記ハ
室後郡砥鹿神社所祭大物主神也とも有ハ合ハ其
御又と申す時ハ素戔鳴尊少て御在し坐すハ合ハず
其本表大明神ハ朝来石部神社云ハ其主神社ありハ然り時ハ八千弐
神の御事ありて大己貴神の亦名あれハ素戔鳴尊ハ
就て御子あり事申すも更あり此を以て見ハ時ハ如
より此ハ粟鹿神と稱奉来ハ其素戔鳴大神のこり

△ほせ給へんを以て

有けし〜借粟ハ本より阿波の假字あり物り〜此ハ
粟麻之云ハ其ノハ言義も別あり語少ク本阿和賀ハ
伊和大神の考けし給へん故事を載て
橋磨國神崎郡あり粟麻之云地有を風土記ハ阿和
賀山伊和大神之妹阿和賀比賣命在於此山故云阿和
加山之見えたる伊和大神ハ大己貴神ハ御坐一坐を
其妹ハ后神の謂ハ非ざる義を聞えたるも右の
但馬の地名を取らせ給ひて御名ハ負し給へん者之
見えたるハ本ノ阿和賀より別ハ意有ありむり
云あり之伊和ハ三輪の言不起れ〜阿和之其之同

△式石部神社見
たふりも克

〜きり猶考ふ可き事あり借續風土記ハ芸父郡相原
神社社を或云室尾ハ幡之云り右ハ十引ハ越後國古
志郡相原國石部神社の御事ハ合り此ハ就て和名抄
小養父郡石永波伊佐郷有ハ石部の轉あり可く也其ハ
伊勢國多桑郡伊佐和神社今村村不在り伊換上神
社相麻村ハ在て川を隔て〜相向ハムリノミヤトハ地ありを儀式
帳ハ竹村立化倉磯部真夜手助督仕奉支之見元神名
秘書裏書ハ相可村磯部寺の各有を以て波を和ハ作
れども石部之石末之本一あり事を知ヤ〜又太神宮
式ハ伊雜宮一座太神遙宮在志摩國答志此ハ此宮

を俗に磯部太神宮と申習へりも伊弉波之磯部と一か
が故あり又其の別して神名式小栗島坐伊弉波
神社二座並之有其伊弉波宮の地主神と聞えたるか
其栗島ハ傳廿九四百九十八丁不注ガ如く少彦名命の教
坐す地あり伊佐波ハ石部と一ある時ハ姓氏録ハ石
邊公大物主命(一作大國主命)男久斯比賀多命之後也と有
レバ其祖大己貴命も坐す所在し坐す所て二座と有
ふも今其部有式小志摩國鴨部磯部と有を考合す可然レバ石部神社を大己貴命と云ふあり其
小所以有る御事ありけり又出雲國出雲郡伊佐波神
和神社を或書ふ今射和村北山上與村東在社北稱上
社東稱下社と云レバ志摩國志摩郡同トく此も二座

御在し坐ありけり諸粟島坐伊射波神社二座ハ右の
如く大己貴命少彦名命二神あり事慥不疑有るを
姫命世記ハ伊弉波宮一座云々天日別命子玉柱屋命
是也と云レバ其相殿ハ伊弉波止美命ハ其磯部の地を額り
と有る上ハ其相殿ハ伊弉波止美命ハ其磯部の地を額り
記ハ是ハ伊弉波神社の祭神とハ別あり諸和名抄ハ
甲斐國山梨郡石部伊佐波郡有り大同類聚方ハ伊佐
波藥甲斐郡山梨郡石部乃家云々と有る石部ハ石
邊公坐す可き事式ハ神部神社有る神部石邊ハ大
己貴神の子孫あり思合す可し諸八代郡佐久神社
淺間神社名神大己貴命坐す此但馬國ハ也其父郡淺間
神社兼多郡佐久神社神部在し坐す所由ハ故其養父郡
己ハ上四十七丁不注せり考合す可し
夜夫坐神社五座名神大二座の説ハ已不傳廿九四百十
不注ハ伊賀國阿拜郡陽夫多神社を伊水温故小菟
田社二座素戔鳴尊大己貴命下と有るも思及不さず

傳廿九下四百十
小引傳風上記
完承御方里の
文ハ其三條を
命ハ其一條を
夜夫坐神社の
始り也

△其近き真辨式外
井上神社有り風土記
名命也之有を台置
△其近き真辨式外
井上神社有り風土記
名命也之有を台置
△其近き真辨式外
井上神社有り風土記
名命也之有を台置

ハ有べうろず屋岡神社を頭注ふ諏訪同之有り兵主
神社續風土記ハ在淺倉村兵主大明神之云又見之井
上神社二座を在吉井村井上大明神之云之有り上三
一ハ注ふが如く山城國の出雲井於神社之同トハ
素戔鳴尊ハ御在生べし又更杵村大兵主神社大同
類聚方ハ志口養又養但馬國養父郡更科村大兵主神
社云之有れば更杵ハ更科誤れふふこり御井神
社ハ大己貴神の御子あり在大屋宮本村合祭千宮本
天王社之有り出石郡相野神社を桐野鴨社之云ふ撰
神貴布祢社桐野村南ハ在有り鴨社神幸の所あり嘉元三年河合社

延喜記ハ云く但馬國三和土野津野等莊後也之有り
古ハ賀茂御祖社の神戸あり一事賀茂神戸記ハ見ゆ
云云下代三石ハ云々事見同神ハ上ホハ桐野神社の御事ハ考
合す可ハ須義神社を頭注ふ三輪同体之云り今管谷
荒木村ハ幡宮是あり之云り中島神社在三宅村所祭
田道間守あり之云れども若くハ胸切形中島の御神
ホハ可く也侍らむ大生部兵主神社今中村之云ハ伊
福神社之云ハ是ハ土人天日槍命の子孫を祀之由ハ
あり又石部神社ハ上の例あり又此ハ式外ありて但馬
風土記ハ出石郡久畑郡有神号久畑明神所祭須佐能

鳥尊也去秋以午日祭之有を今久畑村一宮と申す
 と云り久畑ハ柴加の謂少て蠶養の事小由有る事と
 見ゆ古歌小但馬系を詠ふ小思合す可きあり又同記
 小出石郡出石御谷山川上有神号水上社所祭事代
 主命と有る二式ハ載れずと雖も舊社之所是たり
 右ハ養又出石二郡の較
 坐神社八座並名神大と有る此却社の御事を但馬一
 覽記と云物小御神体大物主命天日槍命と云り此八
 座ハ古事記中卷小故其天之日矛持渡来物者云云并
 八種也と有る下小此者伊豆志之八前大神也云云
 が如くあふ小大物主神を云ハ其大神の神物を天之
 日矛の持来れり謂る但播磨土記小伊和大神と天
 の御事小御在り坐せハ由後小和睦ハせ給以縁小
 てせ小知り難し給集多郡集多神社ハ名神大社の列小

△下百六十列之播磨
 風土記云云
 里命之氣多神有る
 是也大神の此地
 坐す

ハ入せ給はずと雖も神名を以て郡名小負ふを見小
 其謂れ
 其止事無ふ可し故其氣多と申す御名ハ上七十八丁
 八十三丁
 小注子ガ如く新墾の御田を始させ御在り坐けり謂
 れ小依り事あふ不能登固氣多神社の傳小古此大神
 の國即給ひ一故事を傳へ越中國集多神社小集多大
 神宮長能登固還御尚國と有て此小御田神と申す古
 説有り越後國居多神社小昔三輪御進護の時より北
 海擁護の神たりと傳り裁前國集多御子神社小治
 用神とモ申奉り明文有て次々注せり如くあれハ其
 始此小御在り坐けり御蔭の御功世小比りへ是く御

在し生けし御事も是奉り知べきあり續風土記不
 在氣多郷上郷村称惣社大明神と是元たり久寸掛兵
 主神社同記在高田郷久斗村嶋龍大明神と云ひ御
 井神社を在氣多郷土居村称天満宮と云り又城崎郡
 久々比神社在三江郷下宮村称胸方大明神と云り又
 桃島神社を今八幡宮と云ふも三女神御て渡りせ給
 へ子小也兵主神社又兵主神社二座其所在詳あり
三雄重浪神社ハ大己貴神ありと云り又縣神社を一覽
 記小小田井縣大明神大己貴命と有り但姓氏録小
 縣使首字摩志麻蓬命之後也と有れば同殿小坐小也

今江神社ハ近江國淺
 井郡の明子依子事代
 主命小坐り

又氣比神社の御事ハ已小傳十四五十注子ガ如く
 保玄神小て渡りせ給へ子あり即三代實録小仁和元
 年二月十日授但馬國正六位上領卷神後五位下之有
 子領卷神是あり然子一覽記小ハ天日方命玉櫛姫
 命之有ハ氣比神の後祀之成りせ御在し坐小子獨
 和名抄郷名小氣多郡太多又三方三有り城崎郡小
 田結多由之有ハ若狹哉前兩國小在て出雲國より起
 れ子地名ありあど考合す可し備此國小兵主神社之
 出石郡城崎小御在し坐て凡て七社ありハ上古小
 八千之神之御在し坐て荒根神を言向させ給へり
 御事の數多御在し坐バあり可し其中小養又郡あり
 兵主神社二處の中ハ一社ハ妙見社あり可しと云子

△下百九十四因幡國出
井社少大已貴命
を思合す可し

此を石原山と云て甚又群より上り事あれども此
山去又集多城崎七美山跨りて社ハ去又群ハ屬心物
り何れハ其主神社あり可し皆妙是云ハ北辰星
を祀ふ云ハ偽ハ對馬國ありハ神功皇后の征韓
の御時不用させ給へり御身を齋きて妙劍大明神
を祀り又下總國千葉の妙是申すハ經津主神を祀
れり又其元ハ妙あり神劍の謂ふハ字ハ妙劍マ
書を音ハ妙是マ呼びて何の事とも知れざ事ハ
ハ成以て行ハあり皆兵主神申すハ傳廿九卷七十
七丁ハ注子如ク大已貴神平國之廣ギを以て荒振神
を言向させ給へり由以て八千弋神申奉り御事ハ
れハ妙あり知の謂を以て稱奉り御事將強事ハ非
子あり若て出雲大社御造營の御時ハ神村を此妙是
山ハ取て社奉り古式ありハ必然ハ所由有ハ依れり
者ハ所是たり猶土人ハ訂して明らめ置べき事あり
又因云三代實録ハ真觀十年閏十二月廿一日
授祖馬國正六位上大同神祇五位下之有ハ大岡神
ハ續風土記ハ兼多郡ハ大岡寺と云有ハ藥師を祀れ
り云ハ大已貴出彦名二神を祀れり云ハ百六十三
此二柱神の御在ハ坐し始の事ハ傳廿九卷百六十三

丁ハ注れハ其所ハ 又神名式ハ因幡國巨濃郡大神社
就て見ハ可きあり
此御事ハ傳廿九 七丁ハ云り佐味乃兵主神社の佐味
ハ真身あり崇神天皇六十年御紀ハ柳句毛多菟伊頭毛
建 多 磯流賊波鷗流多知菟頭進佐波磨松佐微那碎耳阿
波礼ハ有ハ此を古事記ハ倭建命の御歌と出たハ
ハ結句佐味那志ハ河波礼と作ハ佐味是あり記傳十
七五丁ハ佐味ハ佐比と通ハ和名抄ハ越中國新川郡
佐味越後頸城郡佐味美佐ハ有ハ云れたハ如クハ
て此佐味ハ彼ハ千弋神と申すハ國平之廣事ハ因れ
子御名赤ハを其矛ハ因て兵主神と稱奉り上ハ五て

其鋒刀を美称たるあれハ此佐味ハ姓氏ありて地名
 不ても非あり民部省図帳ハ佐味乃兵主大神宮中
 神皇天照大神也と云ハ誤ふる由傳升九百二十小
 亡小注せり因幡志ハ本郷河崎村田上ハ在り云
 り又高野神社ハ山城國ハ出雲高野神社坐す同神ハ
 志ハ所在高野郷延興寺村鐘撞大明神之稱す是ハ
 一云り傳升八丁ハ注ハ如く五十猛神ハ御在
 一坐ハ可一許野乃兵主神社ハ志ハ本郷新井村上
 山上ハ在り即兵主大明神之稱す許野ハ上古此地の
 名あり云り二上神社ハ上八丁ハ云ハ越中國射水

郡射水神社名神大を御祀ハ二上神と記されて兼多
 同体ハ御在一坐ハ思合す可一志ハ高野郡岩峯山鼓
 山二上山西の麓ハ在り鼓大明神を号す是あり土
 人口碑ハ往山右二上山祭神社有り山巔ハ鼓明神在
 り東ハ天神社在高野南ハ鐘撞明神在高野後延
 是北ハ八幡宮在平腹以上ハ昔より二上山鎮坐の神
 あり然ハ中古山名時氏二上の城草創の時諸社を
 皆敷山ハ移さハ下と見えたり故其鼓明神ハ二上神
 社ハして兼多大神ハ御在一坐ハ天神社ハ本より
 少考名神鐘撞明神ハ五十猛神ハ幡宮ハ玉依姫命ハ

御在し坐て其射水神社あどよりハ本あり〜あ〜可
〜其御名ハ負せし氣多の号の當國ハ起れりと思し
きを思令才可く〜又神湯神社民於今郡中温
湯の有る處を岩井と云ふ此處の神社を伊勢宮と云
ふ是れと云ふ志ハ社傳云所祭神少彦名命蒲生郡湯
村の東の山下ハ在り伊勢宮と稱す〜是れ〜と云り
右の如く少彦名命と傳ふ〜伊勢宮と云ハ彼神宮
の御事ハ非で此少彦名と申す御名ハ當りて少彦
宮と云意味ある可〜隱岐國隱地郡伊勢命神社名神大
も右の傳若實ハ古傳あるむハ少彦名命の亦御名

とも申べき状あり又其高神社と韓神の謂、然し時
ハ御湯神社甘高神社ハ先ハ大己貴少彦名二神の相
並づ〜て國作り御在し坐けし御時の神趾ハ正者ハ
りけ〜
諸此一郡の事ハ就て近江國ハ通ふ事有り
右ハ佐孫乃其主神社御在し坐ハ近江國伊
勢郡佐味神社有り又當郡蒲生郡有り近江國伊
勢郡此ハ日野神社御在し坐ハ近江國蒲生郡
地有ハ傳ハ五卷二百四十七下注ハ其蒲生
郡馬是國神社ハ天穗日命以坐ハ三神ハ出雲より
移〜せ御在し坐けしを當國ハ何れも高草郡ハ
御在し坐す神の由縁ハ因ハ何れも高草郡ハ
神ハ三代實録ハ貞觀三年十月十六日
正六位上賀露神授後五位下同十六年五月十一日
授因幡國從五位下賀露神從五位上元慶元年六月
廿八日丁酉授因幡國從五位上賀露神正五位下同年
十二月十四日庚辰授因幡國從五位下賀露神從四位
下同二年十一月十三日甲辰授因幡國從四位下賀露

△荒坂神社ハ古ハ荒坂
 坂ノ邊ニシテ是カ
 今ハ門ヲ遷シテ
 湯ノ池ニシテ是カ
 第一ノ湯ニシテ是カ
 又ノ湯ニシテ是カ
 御名ハ思合セられ

神後四位上ニ有テ引續テ神階ヲ奉ルセ給ヘシハ
 故有ベシ志ノ浦住保西陸上村海濱ノ山下松林の中
 不在リ但ニ神同社ナリ鎮坐セリ山方荒^紅權現海方
 甘露神社是ナリ社傳云奈神帝澤女命あり云々云
 リ此帝澤女神ハ傳十卷^下ニ注セシムガ如ク命
 乞ノ神ノ坐リ諸此荒^紅權現ニ申サハ本より少考名
 神ノ御事あり然^レテ韓神ハ即大己貴女考名ニ神ハ
 渡^レセ給ヘレバ病をも故^レ命をも延^レサセ給^レ不^レ神ハ
 御在^レ坐を以テ帝澤女神ノ説も出来^レリ^一者^ハ前
 可^レ志^ハ甘露谷ノ地名^ハ由^ハ云^ハシ^ハ思^ハク^ハ前
 後ノ遠有^ベ又法美郡意上^{オカミ}奴神社八上郡久多美神社
 キ事^ハナリ^ハ又法美郡意上^{オカミ}奴神社八上郡久多美神社
 ハ其^ハ八上比賣命^ハ思合^ハ才可^ハき由有^テ傳廿九^{八十}
 ハ注^シガ如^ク又手見神社ハ出雲風土記^ハ謂^ユ島
 根郡手深郷ノ故事ヲ思寄^テ可^キ美^ノ神社ハ出雲
 國出雲郡美^ノ神社御在^レ坐^ハ合^リ又式外^ハ須賀神

と申すも御在^レ坐^ハ三代實録^ハ貞觀三年十月
 十六日丙辰因幡國正六位上酒賀神授^後五位下同十
 六年五月十一日戊戌授^後因幡國後五位下須賀神從五
 位上^ニ有^リ志^ハ酒賀神社^又須賀法美郡大草郷^今作^{スガ}萱^萱
 野村萱野大明神是ナリ社傳曰奈神ニ座左大己貴命
 右木花開耶姫命也社後^ハ聳^タ高山^{スガヤマ}ヲ号^ス
 有^リ大己貴命ノ説^ハ然^シ事^ハあ^グ右^方必^ニ奇^ニ稻^田
 姫命^ニ御在^レ坐^ハつ^メ但^レ右ノ荒坂濱ノ地^ヲ今^ハ湯
 山池^ニ云^モ由^ニ無^ク設^テ名^ニ聞^エざ^レ若^ク
 くハ荒坂神社^ハ傳^ハ廿三^{二百二}十八^{廿四}

十 下注云かく此第一一書小素或鳴尊中御祝福
田媛乃於奇御戸為起而生兒觀清之湯山立三名袂漏
考八鳥野下と有て其八鳥野神と申すハ大己貴神の
御名小御在し坐し須賀神と申奉るハ奇稲田姫命小
御在し坐て古事記八十神段謂御祖命是あり
然並び御在し坐才例ハ能登國羽咋郡兼多神社名神大
能登國郡久志伊奈太伎比咩神社御在し坐し又越中
國射水郡兼多神社御在し坐小其射水神社名神大を二
上神と申して兼多同体の由ある小万葉十七四十小
二上能乎底母許能母云云云云歌有て其並の歌小

須加能夜麻須可奈久能未也孤悲和多利奈年と詠ふ
ハ此地小遠うず須加山と云ふ必有を以あり
此巨濃郡小二上神社御在し坐て此小須賀神社の立
せ給へ小奇異しき迄相符合へ小者ありけり古等
の例を以ても大己貴神り其御祖神と坐小國
巡り御在し坐ける御事を明くめ奉る可し然れば古
事記小此神をて六世孫と云事ハ甚難立き者と
其八十神段小其御祖命天惠而參上天云云不
亦其御祖命天求者得見即折其木而取出治告其
其子言云々御祖命若子云可參向須賀能男命所坐之
根陰洲國云々と有て大穴牟遲神小對へて御祖命と
申すハ皆り此奇稲田姫命の御事ありを記傳小御
祖命ハ大穴牟遲神の御母ありハ利國若比賣ありと

これたゞの甚世系の方ハ有る事正し敷るれ
さり者あり右等の外ハ大已貴神奇稲田姫命並
^御御在り坐す神社稱 借八上郡ハ傳廿九
諸國ハ多在り 八十ハ注ふガ
如く古事記八十神段ハ故此大國主神之兄弟八十神
坐神其八十神各有敬婚福葉之八上比賣之心共行福
羽時於大元年遷神負神為從者率往於是八上比賣
答八十神言吾者不聞汝等之言將嫁大元年遷神
其八上比賣者如先期美刀阿多波志都故其八上比賣
者雖牽來畏其嫡母妻須世理昆賣而其所生子者刺我
木俣而返其名其子云木俣神亦名謂御井神有て八
上比賣命の本居の地ありけれハ大已貴神の御在り

坐し通ハせ給へる地あり事申すも更あり然して其
八上郡賣沼神社を志ハ曳田御曳田村ハ在り西日天
任王之稱す八上姫之神跡是あり之云り大已貴神の神
跡將此邊ハ多在り可（此事云も更あり此神名の事ハ此細書ハ注す可）一大江神社三座文徳天皇実録
小仁壽元年十月己亥朔戊申因幡國大江神授後五位
下之有り志ハ中殿大已貴命右天穗日命左三穗津姫
命在大江御射原村射原大明神是あり之云り此ハ傳
十五二百六十八丁ハ注ふガ如く當郡土師大江の二郷有て
其氏人ハ因れり社号ハ有れども本よりの大已貴
神ホトガ故ハ中殿ハ主と為て齋奉ハ御事之所見た

り次ふ云ふ式外虫井神小考合す可一都波奈弥神社
二座神階の御事右小同ト志小散岐郷和奈見村牛頭
夫王是あり社傳小祭神素戔鳴尊稲田姫命也之云り
と有り又和多理神社を志小八東郡四分保殿村小在
り社傳云祭猿田考命神切皇后自筑前国大渡島遷神
主此小因て称和多理神云和名抄日理郷有り今昆都知云之云り然れども筑前小
大渡島之云物無一若くハ瀛津島を云々然るハ隱岐
國知夫郡由良比女神社名神大元名和多須神を頭涇小大己貴
命禰后須勢利姫命之有之和多須神之同トけれハ亦
り又布留多知神社志小八東郡丹波比郷日理村多知

多知大明神是あり之云ふ土人相傳曰上古諸侯持村の
山中廣留の野小凶徒有り不之岐と称す州民此ガ為
小若之けを此神是を斬て州民を安撫一給ふ因て
其功を崇祭一乃古振を納めて神体之為之云り然れ
ハ神号を古大刀の義ありむら之云り此土人の傳ハ
彼八十神段小謂ゆ生大刀を以て八十神を追獲給
以一御事を記傳た者ありて揮フルクテ大刀の謂ありむを
大刀を納た由云ふありけり猶又式外小虫井神
之申す御在し里り三代実録小元慶七年十二月廿八
日授因幡國正六位上虫井神從五位下之有之是

あり志小智頭郡山形郷大呂村小妙見社有り所祭三
座中殿妙見大菩薩左荒海大明神右三瀧大明神あり
山形郷十六村の氏神とす郡中の大社あり側深谷有
り虫谷と号す社壇の右の谷隘あり八上郡大江郷小
通す虫谷越是あり疑々々是上世の虫井谷の略語
ありて神号其地名を稱す者是と云り此妙見の例
の妙見の義ありて兵主神の謂あり可一其虫井の虫ハ
彼越前丹後等の大虫神社ハ出神社ハ大汝神ハ中汝
神の略あり上八上小注ハ如く越後國奥沼郡伊米
神社を虫野村小坐と云ハ出雲風土記島根郡虫野社

を虫大明神大己貴命と傳云を引て思ハ虫谷又虫
井の稱ハ大己貴神の當昔此小御在ハ坐ける謂ふ
む因れりけるハ右ハ大江郷ハ出神社ハ大己貴神ハ渡
るせ鈴へハ荒海大明神ハ三瀧大明神ハ御事ハ所ハ以ハ此
志ハ其神居の地山深く谷幽ハ木陰ハ表
より本社ハ距て八町羊腸ハ五十四曲ハを踏ハ上ハ是
より六七町山上ハ廣き平地ハ有ハ美任壇ハ云ハ今土
俗伎須美能壇ハ唱ハ俚民相傳ハ云ハ上古三神ハ表ハ壇ハ不
降臨すハ云ハ當社の奈神折ハ大明神ハ号すハハ彼
三社の母神ハ云ハ傳ふハ云ハ故思ふハ不ハ其折居大
明神ハ申すハ例の御祖稻田姫命ハ御在ハ坐ハ其
三神ハ係たハ思ふハ大己貴命ハ其荒魂ハ和魂ハ神ハ之
を合せ祀れハ思ふハ有ハ其隣ハ八上郡ハ秋井ハ曳田
の二郷ハ和名抄ハ見ハえたりハ秋井ハ八上郡ハ秋井ハ曳田
坐ハ大神荒魂ハ社ハ五座ハ秋井ハ八上郡ハ秋井ハ曳田
衆田神社二座ハ秋井ハ八上郡ハ秋井ハ曳田ハ同郡

兼
○日本書紀傳三十

○百九

渡國引田部神社の下引子三代漢録不大神朝良良
臣云々大神引田朝臣等遠祖難同流別各異云々有
を以是れハ安田ハ其和魂大物主神不由有を八上比
賣命の賣沼神社其申田郷不神在し坐り又和多理神
社布留多知神社同日理郷不邑美郡中良崇健神社
立せ給へるも皆由有る事あり
ハ傳廿八八十ハ注せるが如く播磨國揖保郡中良印
達神社名神大と等しく五十猛神不渡了せ給へれハ大
已貴神の御為不御是あり又當郡美和郷和名抄不是
中高草郡伊和神社ハ傳廿九八十ハ已あも云々播磨
國完栗郡伊和坐大巴名特御魂神社名神大と有て其風
土記不伊和村本名大神醸酒此村故日神酒村又云於
和村大神國作託託以於和等於我美岐不所是たれハ右

の美和郷あも必由縁有べき事云々更あり志の一説
小味野郷下味野村岩崎云云所不造古神廟有り云
子是也伊和神社の舊趾あり可うむ和名抄不味野
乃安知と有を合せて味耜高彥根神の御事不も及思不す
可き事あり倭文神社を志不倭文郷倭文村山上不在
り七昧大明神と稱す是あり社傳云祭神大已貴命
と云り但姓氏録大和國神別天神不倭文宿禰出自神魂命之
後大味宿禰と見之たる不倭文之土味野安知の二郷
此不合れハ其祖神も亦此不御在一坐へ一撰津國武
庫郡伊和志豆神社大新大兼次と有ハ此伊和倭文兩社を

△大云白香河川
 下取命神社
 生セバ神子初
 の是つて右小大
 貴命之傳りたる
 可けれバ伊知老
 神社大已貴命下
 照命ふり

合せたる如く聞ひ考ふ可き事あり借氣多郡ハ彼
 八十神段小於大穴年逢神負帝為後者率往於是到兼
 多之前時裸美伏也之有て此神の御為ハ最所以有之
 地あり小神名式あり五座の中ハ其之思寄れハ無
 きを式外ハ鷲峰神之有也兼多大神の御趾あり可き
 三代実録ハ貞觀四年九月八日甲戌授因幡國正六位
 上鷲岑神從五位下同十六年五月十一日戊戌授因幡
 國從五位下須賀神鷲岑神從五位上之有て次度ハハ
 須賀神之世ハ須賀へり志ハ兼多郡殿村郷鷲峰村ハ
 在り鷲岑大明神之稱才國中ノ靈山あり此神社は古

山上ハ在り桓武天皇御宇神廟を御冠嶽ハ移才今謂
 ふ古宮是あり社傳云所祭三座中大已貴命右素戔嗚
 尊左稻田姫命末社四十神郡中一二の大社あり之
 ハ此祭神の説も期せずして上ハ十ハ云ハ能登國兼
 多神社の社傳ハ合ふ者あり此ハ鷲峰神之負セシ
 御名ハ古説ハ能登國ハ往古羽咋の隅より能登國海
 道を經て内浦田鶴濱石崎ふど云所海濱きあり島國
 ありし時ハ人も住ず有ハ依て怪鳥大蛇の棲處ハ
 て在けるを氣多大神此を退治し給ひけるより人家
 出来て一國之成れし由山田の龍大明神鷲嶽ハ情宮

の社傳不遺れり之云ふ其怪鳥の事ハ其鳳至郡鳳至
比古神社の傳不當社ハ天冬衣神ハ大汝命同体
リ天神の退治し給ひ鷲の骸を納めたりより鷲藏
宮云云今ハ重藏宮云云云々同体ハ同坐の
誤ふ可きガ此ハ鷲の説有り然し時ハ此ハ鷲峰
神と申奉ふも正しく右の怪鳥を退治させ給へんが
彼ハ岐大蛇あどの如く甚しき怪物ありを以て其
神功を稱奉ふ者之所見たれば此氣多郡ありて氣多
大神の本宮あり此鷲峰神社ハ御在し坐けり然れ
馬國兼多郡能登國羽吹郡越中國射水郡越後國現城
郡等ハ御在し坐才兼多神社其の本とも申しつ可き

ハ此鷲峰神社ハあり渡らせ給へりけり何を如何して
り式ハハ煩され給へり國司の奏上せざむハ依り事
と見えて其才惜しき御事ありけり因云右ハ引り古
事の素美の事ハ塵除穢表扱ハ因幡記云高草郡其名
二穀有り一ハハ野中草高ければ高草云云其野を
郡名と為り一ハハ竹草郡あり此處本竹林有けり其
故如此云り竹ハ草の長と云意あり竹草ハ云ハ云ハ
其竹の事を明すハ昔此竹の中ハ老たむ免任けり或
時俄ハ流氷出来て其竹の林水ハ成り浪洗ひて竹根
を掘ければ皆崩損けりハ免竹根ハ棄て流れけり程
ハ隱岐國ハ著ぬ水屋落て後本所ハ歸らむと思へど
も渡り可きカハ其時水中ハ鷲と云免有けり此免
鷲ハ云やハ汝ガ族ハ何程ハ多き鷲云やハ一類
多クハ海ハ先汝ガ類ハ多少を計へむ宜島より兼多
山野ハ満り先汝ガ類ハ多少を計へむ宜島より兼多
崎云云所迄鷲を集め一ハ鷲の数を計へて背を並べ
き事を知む鷲免ハ謀りて親族を集めて背を並べ
たり其時免鷲免の上を隔て親族を計へて竹崎ハ渡著
め其後今ハ仕済ハと思ひて親族の多きを云やハ我汝
を謀りて汝ハ渡著ぬ宜ハ親族の多きを見ハ非

す之鞠けり右の鰐を獲立て兜を捕へて兜の毛を
利取て毛も毎き兜の成たりけり其を大己貴神衰
給ひて教給ふ様ハ蒲黄を扱散して其上伏して禱
と宣ふ教の任ハ為の時多くの毛本の如く出来け
り之より右ハ古事記と少遠同有が珍しく引出
た者あり諸右の洪水ハ隠岐島迄流渡りハ海陸
を漫り大水と見えたり其ハ大己貴神の未幼津野
在し坐けり程ハ神又素戔嗚大神の八束水陸津野
命と聞えさせ専國引御在し坐けり御時の事と聞
ゆ但泰西ハ云ふ洪水ハ此時あどハ逆の後の事
り此ハ一ハ云事勿れ故其兜神の事ハ古事記傳述考
ハ素戔神ハ今ハ因幡國高草郡の海辺内海村ハ白菟
社とて有り今ハ高草郡の内あて在れども兼多郡ハ
並て兼多郡の内あり之有る是あり此由縁あり
杵築大社の末社あり鴨大明神とて祀ふハ右の國菟
あり之云り風土記出雲郡鴨濱廣二百歩と有て今も
鴨濱之云ハ其素戔神就但大己貴神の此國ハ御在
た故事あど有るや

坐けりハ其始ハ彼ハ上比賣命を婿ハ御在し坐け

正ふて此御事ハ就た御住来ハ屢御在し坐た可
し若て何れの國にも然るハ有れども此後ハ少彦
名命と世ハ因幡巡り造御在し坐けりあり次ハ其神
の希世郷ハ渡御在し坐けり後ハ一神あり造御在
坐けりおれハ右の神孫の如きも何れを先何れを後
ありと今より定む可きあどざれども其初中後世ハ
右ハ説定めたる如く除理ハ別れて大極ハ遠ハざ
状あり若て其ハ上比賣命を娶て御在し坐けり御
事ハ傳廿九ハ注せりハ如く大倭神社注述状別
社除ハ丹生川上神社 在國國 此神者兩師神也 略是丹

生川上神社為當社之別宮也之有^レ西師神ハ謂^レ由^レ
 高^雷神ノ御事^レ不渡^レ之^レ給^レハ^レ其別宮^ニ被^レ為^レ所
 以ハ其神女を娶^レ之^レ給^レハ^レ因^レ此^レ御事^ニ所^レ是^レた
 リ彼法美郡意上奴神社ハ^雷神あり八上郡久多美神
 社も然^レ不^レ就^レて^レ説を求^レム八上比賣の八上ハ^レ孫^レ龍
 也其^レ霧神不^レ亞^レぐ^レ養^レふ^レめ^レ其^レ令^レ生^レ給^レハ^レ神子不^レ御
 井神の御在^レ坐を以^テ証^ス不^レ足^レり^レ借^レ此^レ神を^レ以^テ
 娶^レ之^レ給^レハ^レ此^レ園土を造^レ固め^レさせ御在^レ坐不^レハ
 上^レ件^ニ不^レ條^レ之^レ云^レガ^レ如^ク水^レ理^を通^レ給^レ不^レ御^レ政^ス也^レ其
 主^レ之^レ事^ニあり^レけれ^バ其^レ御^力を^レ合^レせ御在

△校苑の大^レ羊^ノ神
 神者^レ不^レ信^レ此^レ神
 申^レ世^ノ神^ノ不^レ信^レ此^レ神
 申^レ世^ノ神^ノ不^レ信^レ此^レ神
 申^レ世^ノ神^ノ不^レ信^レ此^レ神

一坐^レむ^レ之^レあり^レ其^レ八上比賣の八十神不^レ答^レ給^レハ^レ言
 不^レ考^レ者^レ不^レ聞^レ汝^ノ等^ノ之^レ言^ヲ將^レ嫁^レ大^レ比^ノ年^ノ遲^レ神^ノ之^レ云^レハ^レ汝^ノ等
 ハ大^レ國^ノ主^ト也^レ給^レハ^レ大^レ比^ノ年^ノ遲^レ神^ノ之^レ申^レ給^レハ^レ幽
 致有^レ言^ニあり^レけり^レ借^レ其^レ末^ニ不^レ故^レ其^レ八上比賣者^レ雖^レ率^レ來
 畏^レ其^レ媼^ニ須^レ世^ノ理^ニ畏^レ責^レ而^レ其^レ所^レ生^レ子^者刺^レ狭^レ木^ノ侯^而返^レ故
 其^レ子^云木^ノ侯^神亦^レ名^ヲ謂^レ御^井神^也之^レ有^レ其^レ率^來之^レ云^ハ
 出^レ雲^ノ宇^邊山^本宮^不あり^其媼^妻を^レ畏^レ之^レ御^子を^レ匿^レ
 返^レ之^レ有^レハ^レ八上比賣命の其^レ本^レ國^ニ返^レ給^レハ^レあり^其生
 坐^レ所^ハ出^レ雲^秋麻^郡御^井神^社出^レ雲^國郡^御井^神社^有
 此^レ二^ノ中^ニあり^可其^レ御^子を^レ刺^レ狭^レ木^ノ侯^而返^レ之^レ有^レ

ハ其産破を建させ給ふ迄ハ及ばれざりし事上
不_レ畏_レ其嫡妻之有_レ少_レ其能通_レえたり斯れハ此より後
ハ其八上比賣命ハ本國なる因幡小位給ひて大己
貴神ハ出雲より度_レこ_レ通_レひせ給へる者ありけり
故其御井神社ハ_{諸國}多在_レ上_{四丁}ハも奉_レた_レ美濃國
各務郡御井神社百莖根ハ三井大明神名記正四位
下御井明神之是_レ式社考_レ今在三井村去_レ加納驛東
二里計御井大明神之有_レ一里餘_ハ稻羽山明神
社有_レ此_ハ式外あり續後紀小養和十五年七月辛酉
美濃國厚見郡无位伊奈波神奉_レ授_レ後五位下依國司等

解状也三代實録ハ貞觀十一年十二月五日_ハ授_レ美
濃國正五位上伊奈波神正五位下元慶二年九月十六
日_ハ授_レ美濃國正五位下香間神正五位上同四年十
一月九日_ハ授_レ美濃國正五位上伊奈波神從四位下
之有_レ神位も式内の諸社ハ_ハ超_レさせ給へるを百莖
根ハ厚見郡岐阜稲葉山正一位因幡社神名記正一位
伊奈波大神_中同所奉_レ權現祭_日葉酢姫命_{皇孫}天_{伊奈}
波神御母也之有_レ事_ハ右の御井神社の引合
を以て云時ハ因幡社の号ハ八上比賣命ハ御在_レ坐
て百莖根の説の如きハ後ハ合祀_レ者_ハ諸此_ハ甚_ニ穿
ちたる説也

△り又多取郷大田田
根子命より有

れども云々三代実録の元慶元年十二月廿九日授
因幡國正六位上相庭神後五位下其所是たる相庭神
ハ大己貴神の八上比賣命と襲給へり一謂曰妻を
を申せり志小葉多郡蔭郡西を村青屋大明神
是ありと云ふハ阿都夜を青屋と誤れり者あり今鳥
取あり五里半西方の住還の側不在と云り右の相庭
を御妻と見ゆ外に説なきが神名式小伯耆國川
村郡倭文神社一宮記小下照姫命也と有り大同類聚
方小の利葉伯耆國川村郡倭文の主之家方巨者下照
姫神方也と有れば一宮記の説甚智れりたり右小云
ふ因幡國高草郡倭文神社を大己貴命と云をも令せ
考ふ可き事せしむる文徳天皇実録小齋衛三年八月
辛未朔丁亥伯耆國倭文神後五位上祝略小天慶二年

九月四日奉授伯耆國後三位倭文神正三位之所是た
り久末郡倭文少波伎神社或説小右の齋衛三年當國の神六社小
加階の御事見えたれども倭文神ハ一社小て此帳の
六社小の合す然れば此倭文ハ川村郡あり錯れたる
少て実ハ大帯孫神社小故む可き心ちす云り今思
ふ小倭文ハ社名あり大帯孫ハ神名あり倭文坐大帯
孫神社と心得べき也若て此神決めて天推彦あり
可一即右の八月辛未朔丁亥伯耆國大帯孫神後五位
上と有り次小因幡神社ハ久佐加と訓り二和名抄御名小河村郡目下
苦佐又會見郡早と有る是ハ因幡とあり出雲國出雲郡久佐加
加郡

△又神代御有り出雲
國公祖神代神
社思合

神社同社大元持海代日古神社同社大元持海代日古
神社之有之此男女二神其御子之通仰れバ久佐加神
社ハ大己貴神不御在^一坐^下き在此國故神社也當
て心得ふ小和名抄小大鴨御小鴨御有て三代實録小
貞觀九年四月八日丁丑後伯耆國正六位上賀茂神後
五位下之有り又下神シモツミナ御上神カミツミナ御有り同録小同十五年
十二月廿日辛未授伯耆國正六位上三輪神從五位下
之有て當郡小式外あり賀茂三輪二神御在^一坐^下事
相叶へ事也あり諸其國故神社ハ今も國故村小之
セ御在^一坐^下け^下たり續後紀小美和四年二月甲子朔

戊戌伯耆國伯耆國無位國故御神奉授從五位下文德天皇
實録小齋衡三年八月辛未朔丁未伯耆國國故神加正
五位下三代實録小貞觀九年四月八日丁丑授伯耆國
正五位下訓故神正五位上之有り又和名抄八橋郡由
良郡有ハ隱岐國知夫郡由良比比神社名神大元名之
和多須神
有不思合す可^一會見郡胸形神社の御事ハ傳十五百
三百云り大神山神社ハ傳廿三百九百注下が如く
丁百云り大神山神社ハ傳廿三百九百注下が如く
彼出雲風土記國引文小目堅加志者有伯耆國大神岳
是也之有て今の加志の石見國安濃郡佐比賣山神社
小相對へるあれバ字の如く意富迹微衣麻之訓べく

△今世小大智明神
申すは神在り
命神在り
事神在り
年神在り
多神在り
山神在り
訓神在り
本神在り
教神在り

一して其所奈八束水臣津國命小御在り坐て即大己貴
神の御父素戔嗚大神小渡りて給へり者あり續後紀
小兼和四年二月甲午朔戌戌伯耆國无位大山神奉授
從五位下文德天皇實錄小齋衡三年八月辛未朔丁未
伯耆國大山神加正從五位下三代實錄小貞觀九年四月
八日丁丑伯耆國正從五位下大山神正從五位上正有り諸
右の續後紀小伯耆國川村郡无位伯耆神大山神國坂
神郡神有り川村郡神伯耆神一社小の神係りて下あり
大山國坂二神神小神且神る神ざ神る神事神あり能神為神ず神ハ神混神ひ神ぬ
可神き神事神あり又神當神郡神鳴神部神郡神有神り日神野神郡神阿神太神鄉神有神り

地神本紀小天日方奇日方命亦名阿田都久志臣命也
有る思合才可神諸古の伯耆神ハ式小川村郡波神伎
小在り事神之神所神是神たり國神名神風神土神記神さ神る神近神古神の神物神小
伯耆之云ハ身稲田縣命ハ岐大蛇を忍れり山中神小通
入給ふ其時母の到り事遅り神其神童神母神來神給神へ神と
云給ひ神地神を神母神來神國神を神云神る神有神り神此神説神の神如神く神ハ神奇
稲田縣命神小起神れ神ハ神地神名神あり神此神も神其神神神を神祀神れ神ハ神奇
也又塵添神遠神甚神抄神ハ神卷神小神伯神耆神風神土神記神云神る神有神り神其神前神文神を神載神
煉懼則鳴神嶺神谷神即神樹神也神隆神踊神云神る神有神り神其神前神文神を神載神
廿神ず神と神難神も神即神樹神也神隆神踊神云神る神有神り神其神前神文神を神載神
ハ羽神平神樹神也神須神也神訓神て神樹神抄神ハ神身神羽神を神樹神也神隆神踊神云神る神有神り神其神前神文神を神載神
不神也神又神震神動神之神時神也神云神ハ神何神ハ神依神て神の神震神動神ハ神今神知神べ神き神
不神非神ず神と神難神も神強神て神思神ふ神ハ神彼神ハ神東神水神臣神津神路神命神の神國神引神
の御時多神ど神不神決神め神て神大神地神の神震神動神甚神り神ハ神今神知神べ神き神
く也上神五神十神四神丁神小神列神ハ神天神武神天神皇神御神紀神ハ神十神三神年神冬神十
月己卯朔壬辰神遠神干神入神定神大神地神震神云神る神是神夕神有神り神焉神也神教神
聞神于神東神方神有神人神曰神伊神豆神島神西神北神二神面神自神然神增神益神三神百神餘神丈神
更神為神一神鳥神則神如神鼓神音神神神造神此神鳥神響神也神之神有神り神ハ神斯神也神御神響神

△美和四年二月甲子
卯戌戌伯耆國川村
郡九位

さし懐のき懼れて鷄雉あまの山を踰て遁れたり
あまむ事今の地震ハ一連く雉ハ騷ぐ者あま思
合す可し歎して其波ハ神社ハ右の續後紀ハ伯耆
神大山神國坂神珠鏡載られたバ素戔嗚尊大己貴
命二神の内あま可くむ事本よりあり文徳天皇実
録ハ齊衡三年八月辛未朔丁亥伯耆國伯耆神加正五
位下三代実録ハ貞觀九年四月八日丁丑伯耆國正五
位下伯耆神授正五位下之有て甚軽くハ神階多じ
御在し故其出雲風土記ハ此而堅立加志者石是國興
出雲國之岨有名依比賣山是也之有て此山の事ハ同
記ハ飯石郡依比賣山郡家正西五十一里一百四十步
石是興出之所見たり歎して神名式ハ石是國安濃郡
雲二國岨
依比賣山神社美濃國郡依比賣山神社之有て飯石安濃
美野の三郡ハ跨りて東方伯耆國大神岳之相對ひて

天進り立ち高山あり借彼國引の故事ハ本著て思ふ
ハ右の大神山神社ハ即素戔嗚大神ハ渡りて給ひ此
ハ須依比賣山の義ありけり若て其大神岳ハ男山此
依比賣山ハ女山ハ此大神の妹妹二柱國の類ハ之
成て堅め御在し坐ハ事必深き音あま有てうりけり
を大己貴神の國造り御在し坐けりも必其を体と為
て物為させ給ふ可くけりハ又此傍ハ神祇將多在
りハ可きハ就て考以て行くハ安濃郡神邊神社ハ鴨
郡ハ同一地神本紀ハ素戔嗚尊十一世孫田之考命此
命磯城瑞籬朝御世賜神部直大神部直姓之有て大己

貴神ハハ十世孫あり又近摩那城上神社山邊八代姫
 命神社那賀郡山邊神社大和國ハハ城上山邊二郡有り大神大和の二神
 御在し坐ハハ思惟ハハ不可ハハ又當郡大國御有ハ彼大國
 主神ハハ聞ハハえさせ御名を眞ハハ地名ハハ通ハハ之那賀郡津
 門神社を社傳ハハ天祖命ハハ云ハハ古書ハハ見ハハえぬ事ハハ
ハハ上ハハ謂ハハハハハハ天八祖の謂ハハ又ハ味耜高彥根神
 を訊ハハれハハるハハ但由ハハ心姫命ハハ申ハハす傳ハハも有ハハるハハ何ハハれハハ
 ても大己貴神の御縁を離れハハ御事あり又三代實
 録ハハ元慶四年ハハ正月ハハ八日ハハ戊申授ハハ石是國國社神ハハ從五位
 下ハハ同四年二月八日ハハ壬辰授ハハ石是國正六位上ハハ楯尾國社

神弟世國社神並從五位下ハハ所是たハハ國社神ハハ例ハハ
 地主神ハハ謂ハハ之聞ハハ仰ハハれハハ大己貴神ハハ御在ハハ坐ハハめりハハ
 但楯尾ハ地名あり弟世ハハ彼弟世御を云ありハハ計ハハれハハ
 此方ハ少彥名神ハハ御在ハハ坐ハハ傳ハハ廿九ハハ百六十ハハハ註
ハハハハハハ此國ハハハハハハ謂ハハ之ハハ靜慮ハハ云有ハハて其始ハハ二柱神
 の位ハハ御在ハハ坐ハハ計ハハ之ハハ地ハハハハハハ思ハハ合ハハ才ハハ可ハハくハハありハハ又三
 代實録ハハ貞觀十六年九月八日ハハ癸巳石是國上言石神
 二自ハハ出雲國來ハハ是日並授ハハ從五位下ハハ有ハハハ決ハハめて大己
 貴ハハ少彥名命ハハ二柱ハハありて渡ハハるハハせ給ハハ不可ハハ御事彼大洗磯
 前神の御事ハハ思ハハ合ハハ才ハハ可ハハき者ハハありハハ
ハハ諸安濃田郡ハハ前
ハハ田神社御在ハハ

△小都麻那有り右ハ
小都麻那神あり右ハ
又式子載り

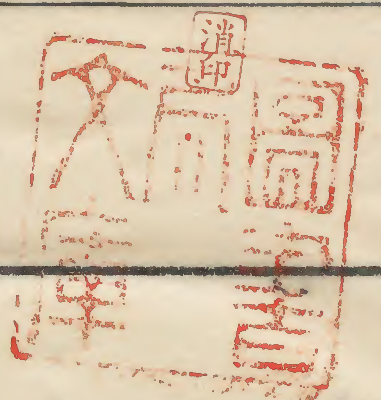
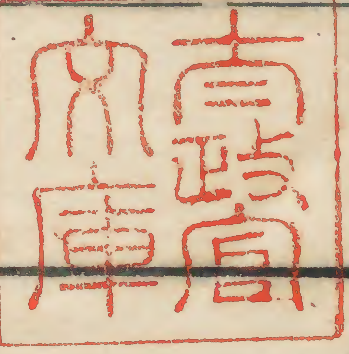
坐ハ傳廿九卷百七十三丁云云陸奥國新田郡新田
嶺神社名神大を蔵王權現と申云其ハ何國少
モ少彦名命を祀りて素戔鳴尊大己貴命を合祀
例ありけ凡バ若くハ此モ其と同トキ社傳等モ有
あむハ聞キ欲キ事あり又傳廿六卷十丁云注
玉ガ如ク此ハ邑知郡有ハ神大市比賣命由有リ那
賀郡大飯彦神社大歳神社ハ素戔鳴尊の御子ありて
大己貴神ハ異母の兄弟あり此ハ須子事ありざれ
事也心得ズ隱岐國造の所祭神ハ大己貴神小御在
坐寸事其家傳不在り皆神名式小謂ゆ知史群由良
比女神社名神大元名須注大己貴命燭夜須勢利姫
命也又所是た即是玉依姫命由良ハ彼變警驗この謂ク亦名の御事あり周者郡玉
若酢命神社之申寸玉ハ彼御誓の御時其物根ハ玉不固て成
出させ御在し坐ける謂あり若酢命出雲風土記小謂

ゆハ和加須西利比賣命之申寸御名の略あり隱地郡
氷若酢命神社名神の氷ハ瑞珠の瑞少て瑞こく美
乘のハ義小て其モ亦上小同トキ由傳十五四百小
委しく注せるガ如く然して其周者郡玉若酢神社を
延延神主の考證ハ今在下西村之北号惣社之書一隱
州視聽合記ハ右同トク又大社あり四方の松杉
皆大ありて靈場位ハ異あり社司を隱岐國造云云
有て國造の奉仕の神是あり並河一教云云人の驛鈴
記ハ國造木記を引て其國造の所祭大己貴命也云云
を令せ見れば右の玉若酢命神社ハ大己貴神と妹妹

△又和魂神荒魂神
の別れ神在し生て
大己貴神と生て
成作し給へ給
ふなりや

二極神相並じ御在し生ありけり然し時ハ右の二社
も正ハ此例あり可き事推て知ハし若て當郡賀茂郡
備神社御在し生し不和名抄賀茂郡有り考證ハ今在
鴨村之東号鴨明神と有り又水祖神社水ハ借字ハ
て御祖あり上三十謂ハ山城國愛宕郡賀茂別當
神社賀茂御祖神社並御在し生し合ハを其別當神ハ
味耜高彥根神亦名事代主神の御事ありを以て周古
郡も耜那あり可きハ思合す可し又和氣能須命神社
ハ別成命少し此大己貴神之御力を合せ持別て國土
造る世御在し生けし習之聞ハれハ火考名命ハ也

當り可し又海部郡奈伎良比賣命神社考證ハ出
雲風土記奴奈宜波比賣命を引り此ハ島前少し出
雲國島根郡美保ハ相鄰ハ地ありも其女神ハ就て
所以有ハし又宇受加命神社名神續後紀ハ美和九年
九月壬辰朔乙巳隱岐國海部郡宇受加命神領官社之
見ハ或説ハ三代實錄ハ元慶八年二月廿七日戊子授
隱岐國西六位上健領佐雄神從五位下同國神名帳ハ
正三位健酒佐能雄神と有ハ此社あり可き由云ハ
實ハ然も有ハし考證ハ在宇津賀村後宇津賀明神之
有ハ受之津之假字遠ハり若くハ後ハ宇津賀之云方



△上下百箇前國神
根元伊勢命神社の
下三考合す可

正しくて珍ツノミコト子命の義ありて有むる右ハ大己貴命不
 就たる神神等の所以あるは猶隱地郡天健金草命神
 社ハ五十種神りと思へき由有て傳升七 十小注一
 又伊勢命神社名神ハ海部郡佐作郷有ハ傳升九百六十四
 十小注二ガ如く火彦名神ハ由有て地名ありは小引合
 せて思ふは火彦命此神を去來欽別神とも亦天伊佐比古神とも申す事ハ猶とも申す由峯相記ハ所見たり然
 れハ火彦命イサヒノミコトの義ありむと思ゆは右百三十小注三因
 幡國巨濃郡御湯神社を正しく火彦名命と云ふ傳の
 有ありは伊勢宮イセミヤと申すと此と一ふれはあり即火彦
 名神の夫己貴神と云ふ御在り坐けり神社り又ハ常

